

福島県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の 会津地方における施肥法

福島県農業総合センター 会津地域研究所

1 部門名

水稲—水稲—品種、施肥法、品質・食味

2 担当者

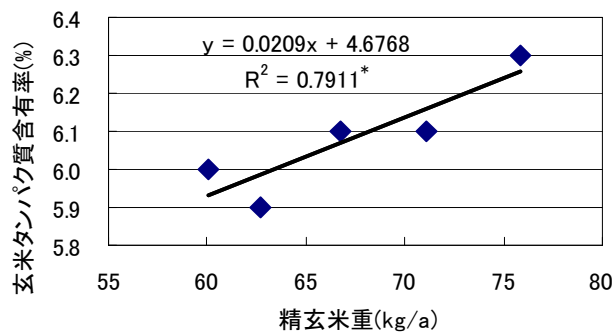
肥田野善隆・新妻和敏

3 要旨

福島県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の会津地方における施肥法について検討した。

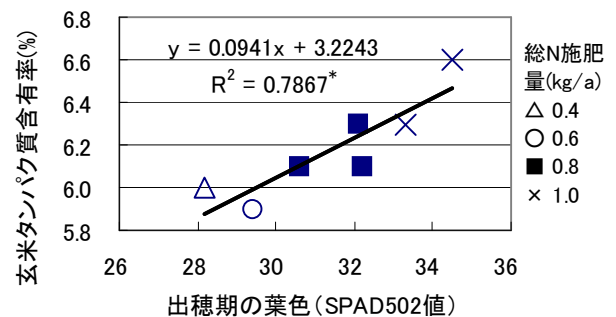
- (1)窒素施肥量が増加すると精玄米重は増加するが玄米タンパク質含有率も増加する。また、追肥(幼穂形成始期0.2kg/a)による増収効果が高い(表1、図1)。
- (2)出穂期の葉色が濃くなると玄米タンパク質含有率が増加する(表1、図2)。
- (3)「天のつぶ」の目標タンパク質含有率が6.4%以下であることから、肥培管理は基肥0.6kg/a、追肥0.2kg/aとし、葉色は幼穂形成始期40、出穂期34以下を目標とする。

図1 精玄米重と玄米タンパク質含有率の関係



※*は5%水準で有意。

図2 出穂期止葉の葉色と玄米タンパク質含有率の関係



※*は5%水準で有意。

表1 施肥法別の葉色、玄米収量、玄米タンパク質含有率及び玄米品質

区名	葉色(SPAD502値)		精玄米重 (kg/10a)	玄米タンパク質 含有率(%)	玄米品質 (1-10)
	幼穂形成期	出穂期			
4-0	38.4	28.2	60.1	6.0	2.5
6-0	40.6	29.4	62.7	5.9	2.5
8-0	42.1	30.6	66.7	6.1	2.0
6-2	39.4	32.2	71.1	6.1	2.5
8-2	41.8	33.3	75.8	6.3	2.0

※区名の○-○は窒素施用量(kg/10a)で、「基肥」-「幼穂形成始期追肥」を表す。出穂期の葉色は止葉を測定。
精玄米重は粒厚1.8mm以上。玄米タンパク質含有率は水分率15%換算。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度
- (2) 研究課題名 県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度センター試験成績概要